

資料2

令和元年度 王滝村総合戦略評価報告書

王滝村総合戦略会議
令和元年12月19日

目 次

I 「玉滝村総合戦略」の評価について	1
1 趣旨	1
2 玉滝村総合戦略の進捗状況の概要	1
(1) 基本目標の進捗状況	1
(2) 重要業績評価指標（K P I）の進捗状況	2
II 各指標の進捗状況	5
1 【くらし】	
(1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持	5
(2) 火山災害をはじめ安全安心な災害対策	8
(3) 安全なくらし	10
2 【移住・交流】	
(1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進	15
(2) 下流域地域など交流の一層の充実	18
3 【産業】	
(1) 観光資源の活用による地域振興	20
(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出	24
(3) 地域に根ざした産業の振興	27
4 【子育て・福祉】	
(1) 子育てにやさしい村づくり	29
(2) 教育環境の充実	31
(3) 高齢者が安心して過ごせる村	33
(4) 生きがいをもって暮らせる村	37
5 玉滝村総合戦略に含まない施策（長期振興計画にのみ記載）	39

I 「王滝村総合戦略」の評価について

1 趣旨

「王滝村総合戦略」を着実に推進するため、その進捗について評価し、今後の施策や事業の改善に活用します。

基本目標（数値目標）及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況を客観的に把握し、外部の視点も確保して評価を行い、村民に公表します。

2 王滝村総合戦略の進捗状況の概要

王滝村総合戦略の4年目である平成30年度の施策に係る基本目標（数値目標）及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況の概要は以下のとおりです。

(1) 基本目標の進捗状況

5つの基本目標に掲げた6つの数値目標について、計画最終年度である平成31年度の目標達成に向けた進捗状況を「順調」、「概ね順調」、「努力を要する」の3段階で評価しました。

その結果、6指標全てが「努力を要する」となりました。

基本目標	指標及び目標値	実績値			
		27年度 (1年目)	28年度 (2年目)	29年度 (3年目)	30年度 (4年目)
1 出生数	平成27～31年出生数 27人 (H22～H26年13人)	3人	3人	3人	2人
		努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する
2 社会移動増減	平成27～31年社会移動数 △40人 (H22～H26年△50人)	△7人	△25人	△6人	△11人
		概ね順調	努力を要する	努力を要する	努力を要する
3 観光地延利用者数・観光消費額	観光地延利用者数 平成31年320千人 (平成26年273千人)	116千人	171千人	158千人	160千人
		努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する
	観光消費額 平成31年13.8億円 (平成26年11.7億円)	5.1億円	8.1億円	7.7億円	7.8億円
		努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する
4 公共交通機関利用者数	公共交通利用者数 平成31年度2,000人 (平成26年度1,120人)	1,022人	1,199人	1,302人	1,324人
		努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する
5 健康な人の割合	高齢者に占める要介護者の割合 平成31年減少 (平成26年9.3%)	9.8%	13.5%	14.1%	13.0%
		努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する

村の人口について、平成31年4月1日現在753人で、平成30年4月1日現在の776人と比較し、1年間で23人の減少となっています。

内訳は自然減12人（出生2人、死亡14人）社会移動減11人（転出超過）です。

【村の人口の推移】

平成31年4月1日 753人（△23人）
 平成30年4月1日 776人（△11人）
 平成29年4月1日 787人（△41人）
 平成28年4月1日 828人（△11人）
 平成27年4月1日 839人（△29人）
 平成26年4月1日 868人（△20人）
 平成25年4月1日 888人

～

平成15年4月1日 1136人

※15年間で年間平均（△25人）

(3) 重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

39の重要業績評価指標（KPI）について、基本目標と同様に3段階で評価しました。

その結果、全指標の51.3%にあたる20の指標で3年目の進捗状況と比較して僅かではありますが、順調の指標が増加しています。

平成30年度（4年目）の重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	11 (68.8%)	0 (0%)	5 (31.2%)	0 (0%)	16 (100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	0 (0%)	5 (100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	4 (44.5%)	3 (33.3%)	9 (100%)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	6 (66.7%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	9 (100%)
計 (%)	20 (51.3%)	3 (7.7%)	12 (30.7%)	4 (10.3%)	39 (100%)

※端数処理のため合計が100.0にならない場合もあります。

【進捗区分】 ※5年間の計画期間のうち、4年間で終了したことを考慮

順調 : 80%以上の進捗

概ね順調 : 60%以上80%未満の進捗

努力を要する : 60%未満の進捗

実績値なし : 実績値がない又は把握できない

【参考】

平成29年度（3年目）の重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	10 (62.5%)	0 (0%)	6 (37.5%)	0 (0%)	16 (100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	3 (60%)	0 (0%)	2 (40%)	0 (0%)	5 (100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	5 (55.6%)	2 (22.2%)	9 (100%)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	5 (55.6%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	0 (0%)	9 (100%)
計 (%)	19 (48.7%)	4 (10.3%)	14 (35.9%)	2 (5.1%)	39 (100%)

※端数処理のため合計が100.0にならない場合もあります。

- 順調 : 60%以上の進捗
- 概ね順調 : 40%以上 60%未満の進捗
- 努力を要する : 40%未満の進捗
- 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

平成28年度（2年目）の重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	10(58.9%)	0(0%)	7(41.1%)	0(0%)	17(100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	3(60%)	0(0%)	2(40%)	0(0%)	5(100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	1(11.1%)	2(22.2%)	4(44.4%)	2(22.2%)	9(100%)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	4(44.4%)	4(44.4%)	0(0%)	1(11.1%)	9(100%)
計 (%)	18(45%)	6(15%)	13(32.5%)	3(7.5%)	40(100%)

- 順調 : 40%以上の進捗
- 概ね順調 : 30%以上 40%未満の進捗
- 努力を要する : 30%未満の進捗
- 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

平成 27 年度（**1** 年目）の重要業績評価指標（K P I）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	12(70.6%)	0(0%)	5(29.4%)	0(0%)	17(100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	4(80%)	0(0%)	1(20%)	0(0%)	5(100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	3(33.3%)	1(11.1%)	0(0%)	2(22.2%)	9(100%)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	6(66.7%)	1(11.1%)	0(0%)	2(22.2%)	9(100%)
計 (%)	25(62.5%)	2(5%)	9(22.5%)	4(10%)	40(100%)

順調 : 20%以上の進捗

概ね順調 : 15%以上 20%未満の進捗

努力を要する : 15%未満の進捗

実績値なし : 実績値がない又は把握できない

Ⅲ 各指標の進捗状況

1 【くらし】安全・安心なくらしを守り、王滝村の特性を生かした村づくりを進めます

(1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持

指標名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
ごみ排出量の抑制	目標値	t						247以下
	実績値		258	248	237	194	185	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	【備考】 木曽クリーンセンターにおける王滝村分の粗大ごみ、不燃ごみ、可燃ごみの年間処理量 [長期振興計画での平成32年度目標値を踏まえた数値を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年4月より 生ごみの分別収集を開始。 広報誌等を活用した啓発活動 					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	生ごみの分別収集を開始したため、ごみの排出量は計画以上に減少し順調に進捗しています。 引き続き、村民の意識醸成のための啓発に努めます。						
指標名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
リサイクルの推進	目標値	t						63
	実績値		58	66	62	73	74	
	進捗区分			順調	努力を要する	順調	順調	
	【備考】 木曽クリーンセンターにおける王滝村分の資源ごみ回収量及び学校における資源ごみ回収量 [長期振興計画での平成32年度目標値を踏まえた数値を目標]	主な施策	広報誌等を活用した啓発活動					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	村民に資源ごみをリサイクルする意識が浸透しており、資源ごみの回収量は目標以上となり順調に進捗しています。 引き続き、一過性のものにならないよう啓発に努めます。						
指標名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
企業団体との連携	目標値	件						6
	実績値		5	5	5	5	6	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	【備考】 年度末における水源の森パートナー協定締結件数 [水源の森パートナー協定を結ぶ団体を更に1団体増やすことを目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> 水源の森づくりパートナー協定 森の里親パートナー協定 					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	パートナー協定の締結件数は1件増加し順調に推移しています。 下流域市町とのふれあい交流などあらゆる機会を捉えてパートナーになっていただける団体の募集に努めます。						

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
上下水道の整備	目標値	%						現状維持
	実績値		99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	【備考】 年度末時点における上水道普及率 [普及率を維持することが目標]	主な施策	・水道施設の維持管理					
	進捗状況の分析及び今後の取組	普及率は現状維持されており順調に推移しています。 引き続き、施設の維持管理に万全を期し、安全な水の供給に努めていきます。						
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26 年)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
行政関係電気使用量	目標値	KWh						757,200
	実績値		826,000	838,425	860,839	878,124	837,243	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	【備考】 年間(年度)の村有施設電気使用量(村負担分) [長期振興計画の平成32年度目標値を踏まえた数値を目標]	主な施策	・役場庁舎等における不必要な照明の消灯の実践 ・公共施設照明のLED化推進					
	進捗状況の分析及び今後の取組	公共施設における必要最小限の照明の使用に加え、LED化に取り組んでいます。30年度は役場庁舎(経済産業課事務室)を実施、令和元年度は、引き続き役場庁舎及び診療所で予算化しています。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	3Rの推進、周知、啓発	広報誌等を活用した啓発活動	B	29年度より生ごみの分別収集を開始しました。広報誌を活用した定期的な啓発を行います。食品ロス削減に向けた啓発を行います。	福祉健康課
2	村民参加の村内美化清掃及び御嶽清掃登山の実施	年2回の村内美化清掃の実施	B	30年度のごみ回収量は春秋合計 70kg でした。今後も継続して行います。 ※御嶽山清掃登山は入山規制により実施不可	福祉健康課
3	不法投棄防止パトロールの実施	不法投棄防止パトロール	B	不法投棄は見受けられませんでした。	福祉健康課
4	王滝村公園事業	環境美化等に関する啓発活動	C	住民全体が景観美化の意識を高める取組を検討し、自然環境を活かした村づくりを目指します。	福祉健康課
5	簡易水道の安定供給を行なうための適正な有資格事業者による施設管理、保守点検	配水池壁面補修	B	予算の範囲内で各種修繕工事を実施しています。専門業者による水質検査及び保守点検を委託して行っています。	経済産業課
6	電気使用量及び化石燃料使用量の削減	チラシの配布による啓発 薪ストーブの継続的利用	C	温室効果ガス排出抑制に向けて、各家庭での取組の啓発に努めます。 役場庁舎では薪ストーブの継続的な利用、公共施設においては照明のLED化、こまめな節電を心がけます。	福祉健康課 総務課
7	環境にやさしい自然エネルギーの検討及び導入	木質バイオマス発電、太陽光発電、地熱発電等の導入（誘致等）検討	C	これまでの導入調査の状況を踏まえながら、自然エネルギー導入のあり方について多様な観点から検討を進めます。	福祉健康課 村おこし推進課
8	用紙類使用量の削減	ペーパーレス会議システム導入の検討	C	ペーパーレス会議システム導入の検討をします。(タブレット端末)	総務課
9	グリーン購入の推進	コピー用紙古紙 100%使用	A	古紙100%使用を継続します。	総務課
10	公共施設の整備・維持管理や公共事業・イベント等での環境への配慮	役場庁舎の照明をLEDに交換 グリーン購入の推進	B	今後も環境に配慮した整備・物品の購入に取り組みます。	福祉健康課 総務課

(順調)	A	1	10%
(概ね順調)	B	5	50%
(努力を要する)	C	4	40%
(実績なし)	D	0	0%
合計		10	施策

(2) 火山災害をはじめ安全安心な災害対策

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
防災・観光アプリケーションの利用者数	目標値	人						5,000
	実績値		—	450	600	680	769	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	【備考】 年度末におけるスマートフォン用防災・観光アプリケーションの登録者数 [年間 1,000 人程度の登録者を目標]	主な施策	インターネット、ポスター、チラシ等を活用した啓発活動					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	レベルの降下と共に気象庁から火山観測情報が発表されなくなったことから、アプリからダイレクトで気象庁の御嶽山火山情報を参照できるように改修しました。今後は、入山規制範囲の縮小とともに登山者も増えることが予想されるため、アプリの周知を徹底し、防災無線をはじめとした複数メディアによる情報伝達体制を整えます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
消防団人数 (機能別団員を含む)	目標値	人						70
	実績値		78	78	77	73	69	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	【備考】 年度末における消防団員(機能別団員を含む)の数 [基準値の1割減程度を目標]	主な施策	消防団員、機能別消防団員への勧誘活動					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	消防団員数は、目標値より僅かに下回っていますが、人口に対する消防団員の比率としては、類似団体と比較して極めて高いことから「順調」とさせていただきます。今後も消防団員の減少が見込まれるため、引き続き新入団員、機能別消防団員の勧誘に努めるとともに、定年の引上げについても検討します。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
自主防災組織の育成	目標値	団体						5
	実績値		2	3	3	3	3	
	進捗区分			順調	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	【備考】 年度末における自主防災組織の組織数 [村内の約半数の地区で自主防災組織を組織することを目標]	主な施策	自主防災組織の定期訓練への消防団員の派遣、指導					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	自主防災組織は3団体と横倍で推移しています。消防団の編成との兼ね合いもありますが、防災訓練等の機会を利用して自主防災の重要性について啓発を行うとともに、自主防災組織の整備を促進していきます。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 火山災害をはじめ安心安全な災害対策

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	御嶽山噴火対策の推進 (避難施設、ビジターセンター整備、火山マイスター育成 等)	9 合目監視小屋設置 VC (ビジターセンター) 建設専門委員会の設置	B	長野県、木曾町及び関係機関との協議を継続し、VC、避難施設等整備の取組を加速させます。平成 30 年度に 9 合目監視小屋の整備を実施し、今年度は王滝頂上の施設整備を行うことで安全対策をの強化を図り、入山規制緩和に向けた環境整備に積極的に取り組みます。	総務課 経済産業課
2	安全・安心な情報通信体制の整備	防災行政無線、J-ALERT の保守点検	B	今後も防災行政無線、J-ALERT システムの保守点検を実施していきます。	総務課
3	防災・観光アプリケーションの開発整備及び活用	防災観光アプリの運用	C	今後、観光 DMO を通じて木曾町と連携し御嶽山麓エリアの防災を中心とした広域のかつ効果的な運用策を検討します。	村おこし推進課 総務課
4	消防団の組織再編と機能別団員や女性団員の任用による団員の確保	団員確保のための積極的な勧誘	B	消防団員数は機能別団員を含め、概ね想定通りです。今後も時代に即した組織づくりに努めるとともに勧誘活動を継続し、団員確保を図ります。	総務課
5	自主防災組織の育成強化	滝越、りんどう平の自主防災組織の訓練に消防団員を派遣	B	消防団員と合同で訓練を実施するなど、技術、知識の習得による防災力向上に努めるとともに今後も組織育成強化に努めます。	総務課
6	広域消防、近隣町村や関係機関をはじめ役場消防隊や自主防災組織などとの連携強化	広域消防との合同訓練を実施	B	各種合同訓練や人と人との交流を通じて、各関係機関との連携を強化し、消防力の向上を図ります。	総務課
7	要援護者や高齢者世帯及び一人暮らし高齢者の救助体制の確立	要支援援護者台帳に基づく救援体制の整備	B	定期的に地域の状況を把握し、台帳更新を行います。登録者及び地域住民が安心して暮らせるよう関係機関で情報を共有し、支援業務が的確に行える体制を整えていきます。	福祉健康課
8	住民支え合いマップの充実と地域との連携による支援体制の強化	要支援援護者台帳の随時更新	B	整備された台帳が有事の際に機能できるよう、連動してマップを整備していきます。消防や地域住民・関係機関などと連携を深め、支援体制の整備を図ります。	福祉健康課
9	防災無線やCATV、携帯電話(防災メール)など情報伝達の多重化	災害時等、防災行政無線や携帯電話(緊急速報メール)での情報伝達	A	平成 30 年度から防災行政無線デジタル化に着手しました。各種メディア連携も可能となり情報伝達の多重化を実現に向けて令和 2 年度末完成予定で取り組んでいきます。	総務課
10	袋小路の解消(白巣峠など)に向けた取組	県道御岳王滝加子母付知線道路期成同盟会での活動	C	期成同盟会による視察、総会、事務局会議等開催により、関係自治体を中心として道路利用等促進の気運醸成を推進します。	総務課

(順調)	A	1	10%
(概ね順調)	B	7	70%
(努力を要する)	C	2	20%
(実績なし)	D	0	0%
合計		10	施策

(3) 安全なくらし

指 標 名	年度	単位	基準値 (H27.11末)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
交通死亡事故ゼロ記録の更新 【備考】 年度末における交通死亡事故ゼロの期間 [交通死亡事故ゼロの期間が続くことが目標]	目標値	日						更新
	実績値		10,765	10,887	11,252	11,617	11,982	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> 朝の街頭指導 学校交通安全教室の開催 観光客向け街頭指導所開設 						
進捗状況の分析及び今後の取組	交通死亡事故ゼロの期間が引き続いており順調に推移しています。交通安全協会王滝支部と連携を図り街頭指導、交通安全教室等の実施により、引き続き交通安全意識の啓発に取り組みます。また、高齢者の交通安全対策について検討し、免許返納などの諸課題に取り組んでいきます。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
消費者被害 【備考】 消費者被害として役場に報告等がされた件数 [0件を維持することが目標]	目標値	件						維持
	実績値		0	0	0	0	0	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> 啓発資料の作成・配布 郡内での発生事例の情報提供 						
進捗状況の分析及び今後の取組	被害報告は受けておらず順調に推移しています。引き続き、啓発資料の作成・配布、郡内での発生事例の迅速な情報提供に努めていきます。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
村内巡回バス台数の増 【備考】 年度末における巡回バスの運行台数 [巡回バスの運行台数を2台にすることが目標]	目標値	台						2
	実績値		2	1	2	2	2	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年3月から2台体制で運行をしています。 						
進捗状況の分析及び今後の取組	平成28年度以降、2台体制で運用を図っています。平成30年度は試行的にデマンド方式での運行を実施し、利用者が1.7%増加しました。今後も利用者目線に立った運用を検討してまいります。また、30年度地方創生推進交付金を活用し、10人乗りのキャラバンを購入(更新)し、センター線などで運行していきます。							

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)	
村道改良率	目標値	%						45.4	
	実績値		42.0	41.8	41.8	41.8	42.8		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	【備考】 年度末における村道の改良率 [長期振興計画での平成 32 年度目標値を踏まえた数値を目標]		主な施策		村道 41 号線道路改良				
			進捗状況の分析 及び今後の取組		今後は、道路の維持、防災を重点に取り組むとともに、村道のあり方について検討を行っていきます。				
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)	
村道舗装率	目標値	%						58.6	
	実績値		56.0	55.8	55.8	55.8	57.1		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	【備考】 年度末における村道の舗装率 [長期振興計画での平成 32 年度目数値を踏まえた数値を目標]		主な施策		舗装の維持管理				
			進捗状況の分析 及び今後の取組		今後は、予算を踏まえながら、必要な箇所への道路舗装に努めるとともに、村道のあり方について検討を行っていきます。				
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)	
通信環境の広帯域化	目標値	Mbps						100	
	実績値		30	30	30	30	1,000		
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	順調		
	【備考】 年度末における広域連合が整備しているインターネット回線の通信速度 [光ケーブルの一般的な通信速度である 100Mbps を目標]		主な施策		ケーブルテレビ回線の全線光化整備				
			進捗状況の分析 及び今後の取組		木曾広域連合の事業によりケーブルテレビ回線の全線光化の整備がされ、最大 1G (1,000Mbps) の超高速インターネットが可能になりました。				

指 標 名	年度	単位	基準値 (H27年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年 度)
公共等施設の耐震化 【備考】 年度末における非耐震施設の数 [5年間で2施設の耐震化を実施することを目標]	目標値	施設						10
	実績値		12	12	12	12	12	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	主な施策	—						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	王滝村耐震改修促進計画の更新版に基づき、王滝村公共施設等総合管理計画進捗委員会において施設の優先順位付けを考慮した上で、耐震化に取り掛かる予定にしています。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年 度)
王滝村公共施設総合管理計画 【備考】 当該年度における王滝村公共施設等総合管理計画の策定状況 [王滝村公共施設等総合管理計画の策定が目標]	目標値							策定
	実績値		—	未策定	策定済み	策定済み	策定済み	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	主な施策	・ 村有施設財産台帳の整備						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	すべての村有施設の財産台帳の整備が終了し、計画策定（更新）に向け順調に推移しています。 平成 28 年度に王滝村公共施設等総合管理計画を策定し、王滝村公共施設等総合管理計画進捗委員会において議論いただいた結果を基として今後、施設ごとの個別計画を令和 2 年度末を目途として策定する予定です。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(3) 安全なくらし

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	防犯対策及び環境対策 LED防犯灯の維持管理	村内防犯灯の維持管理	A	地区要望等に応じ、移設、新設を実施していきます。	総務課
2	こども育成会の充実強化 など地域をあげて青少年 健全育成の推進	子ども育成会等での指導 者研修 青少年健全育成のための 啓発活動	B	子ども育成会による指導者や保護者向けの 研修会の開催や交通安全週間などの時期を 捉え、児童生徒や青少年への声かけや啓発 活動を実施していきます。	教育委員会
3	防犯、交通安全関連優良 団体、功労者の表彰	功績のある方の推薦・表 彰	B	主だったものとして平成30年度長野県交通 安全運動推進本部顕彰交通安全功労(個人) 2名受賞しました。今後も機会を捉えて功績 のある方を推薦していきます。	総務課
4	家庭、職場、学校、保育園 等における交通安全教育 の推進	交通安全協会による街頭 指導、学校交通安全教室 での指導	B	児童生徒が減少していく現状を踏まえて、 学校、保育園とも協力し、より良い交通安全 教育を実施していきます。	総務課
5	電動カート講習会開催な ど安全利用の推進、子ど もと高齢者の交通事故防 止	高齢者交通安全大会への 参加	B	木曾郡で開催された高齢者交通安全大会に 参加し、交通安全に対する意識向上を行いま した。村独自の電動カート講習会の開催を 検討します。	総務課
6	村内危険箇所の点検と交 通安全施設の整備	村内にある交通安全啓発 用のぼり旗等、啓発用品 の更新	B	今後も、啓発用品で交通安全を呼びかける とともに、交通安全協会、道路管理者で危険 箇所点検を実施し交通事故の防止に努めま す。	総務課
7	啓発資料の作成配布	チラシ配布	B	特殊詐欺を含めた消費者被害「0」に向け、 今後も啓発活動を継続します。	総務課
8	村内及び近隣町村での発 生事例等の情報提供	広報による情報提供	B	警察署等からの情報を、即時に広報等で村 民へ情報提供を行っていきます。	総務課
9	人権啓発、人権教育の推 進	小中学校で人権について 考える”みんなの樹業”を 定期的に開催	B	人権への関心が広がるように引続き人権教 室や広報誌等の掲載等を地道に取り組んでい きます。	福祉健康課 教育委員会
10	人権相談所、心配ごと相 談所の利用促進	毎月テーマごとの相談所 を開設	B	引続き身近な相談所ということで、村内で 毎月開設していきます。 広報など随時行い周知を図るよう努めてい きます。	福祉健康課
11	人権に関する関係機関と の連携	情報の共有やネットワー クづくりを図るため各種 担当者会議へ出席	B	人権問題の啓発、解決等を関係機関(教育委 員会、学校、行政、人権擁護委員、法務局、 木曾郡障がい者自立支援協議会等)と連携 を図りながら取り組んでいきます。	福祉健康課 教育委員会
12	男女共同参画推進の基盤 づくり	研修等への参加	C	男女参画基本計画について再検討してい きます。	福祉健康課
13	男女平等意識の啓発、普 及	公共施設などへの啓発パ ンフレットの設置	B	各種窓口へ啓発用のパンフレットなどの設 置を行うほか広報紙などへの掲載を随時し ていくよう努めます。	福祉健康課
14	男女が共に働きやすい環 境づくりの推進	公共施設などへの啓発パ ンフレットの設置	C	地域社会全体の意識の向上を図れるよう広 報紙等を活用した取り組みを行っていきます。	福祉健康課
15	基幹路線バス確保対策事 業	前年度なみの路線、便数 を維持	B	木曾町と協議・連携を密にし、現状の路線、 便数を維持していきます。	総務課
16	村内巡回バス運行事業	2台体制での運行を実施	B	新たに導入したデマンド方式を継続し、利 用者の利便性向上を目指します。	総務課

17	巡回バス運行事業に携わる運転有資格者の育成及び確保対策事業	資格取得者累計 10 名	B	引き続き、有資格者の確保を図ります。	総務課
18	社会福祉協議会への運行委託で実施している過疎地有償輸送との密な連携対策事業	必要に応じ調整会議を開催（5回開催）	B	必要に応じ調整会議等を開催し、住民ニーズへ対応する事業を展開していきます。	総務課
19	道路の定期的な安全点検及び防災事業の実施	道路の定期点検・計画的な道路改良工事	B	道路定期点検委託を実施します。	経済産業課
20	村民との協働作業による維持管理	村内草刈り・地区内の除雪作業	B	住民の負担にならない様に村内の草刈りや、地区内の除雪作業（要望地区への除雪機の配備）を協働で進めていきます。	経済産業課
21	既存ケーブルテレビを活用したデジタル自主放送設備の整備	専門業者（外注）による番組制作	B	村民向けの番組製作を予算の範囲内で実施します。	総務課
22	（広域）木曾高度情報通信網の整備	FTTH 化事業	B	平成 30 年度に FTTH 化事業着手。インターネット 1G の高速通信が可能になりました。	総務課
23	電子自治体の推進	一部の申込等に電子申請を導入	B	県外プレミアム商品券、観光パンフ郵送請求、犬の死亡届、水道休止再開申請、家屋滅失届が電子申請できるようになりました。	総務課
24	王滝村耐震改修促進計画の策定	平成 29 年度見直し	C	公共施設の利活用を含め、耐震化施設の優先順位を検討し、老朽化の著しいものは解体を進めます。	総務課
25	公共施設・災害時避難所・集会施設等の更新・耐震化に向けた優先順位付け	公共施設等総合管理計画会議の開催	A	30 年度は公共施設等総合管理計画会議を毎月開催し、公共施設の統廃合を含めた有効活用について提言をまとめました。	総務課
26	インターネットを使った公共財産の売買等情報提供の充実	村ホームページへの掲載を検討	D	売買物件の精査から開始し、必要に応じインターネットを活用します。	総務課
27	公共施設あり方検討委員会によるコスト削減の具体化の検討	公共施設等総合管理計画会議の開催	B	30 年度は公共施設等総合管理計画会議を毎月開催し、公共施設の統廃合を含めた有効活用について提言をまとめました。	総務課
28	村民からの意見交換による活用策の検討	公共施設等総合管理計画会議の開催	A	30 年度は公共施設等総合管理計画会議を毎月開催し、公共施設の統廃合を含めた有効活用について検討しました。	総務課
29	使用不能な公共施設の計画的改修撤去	公共施設等総合管理計画会議の開催	B	30 年度は公共施設等総合管理計画会議を毎月開催し、公共施設の統廃合を含めた有効活用について提言をまとめました。	総務課
30	王滝村絆助成事業の実施	団体の絆助成事業の実施	C	平成 30 年度は 4 団体から申請いただきました。応募団体の減少からニーズがあるか見極め、見直しを検討していきます。	村おこし推進課

（順調）	A	3	10.0%
（概ね順調）	B	22	73.4%
（努力を要する）	C	4	13.3%
（実績なし）	D	1	3.3%
合計		30	施策

2【移住・交流】村の特性を活かした移住・交流を進めます

(1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
テレワーカー等行政 関与の移住	目標値	人						5
	実績値		—	1	0	0	0	
	進捗区分			順調	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	【備考】 年度末時点のテレワーカー等 行政関与による移住者の数 [年間 1 人程度の移住者を目 標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトオフィスとなる施設の整備 ・「おうたき寺子屋」の開設 ・地域おこし協力隊員（集落支援員）の採用 					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	テレワークの推進、地域おこし協力隊の定住サポートの取組により移 住者の確保に努めていきます。村ホームページや各種ポータルサイトを 活用して積極的に情報発信を行っていききたいと思います。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
地域おこし協力隊員 の採用	目標値	人						15(累計)
	実績値		5(累計)	8(累計)	12(累計)	17(累計)	21(累計)	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	【備考】 地域おこし協力隊員の累計 採用数 [毎年 2 名程度の採用を目 標]	主な施策	地域おこし協力隊員の採用					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	地域おこし協力隊員を随時採用し、採用人数（累計）は目標値を上回 っています。引き続き、採用した地域おこし協力隊員への定住サポート を行うとともに、今後も協力隊員を積極的に採用することで、移住条件 の不利を補い、移住者の呼び込みに努めます。 なお、30 年度末までに退任した 18 名の協力隊員のうち、定住してい る方は 4 名です。（定住率 22%）						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
サポートによる結婚	目標値	組						1 以上
	実績値		—	0	0	0	0	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	【備考】 年度における行政、関係機関 が関与した婚姻の数 [行政、関係機関が関与した 婚姻が成立することを目標]	主な施策	郡内 6 町村の広域連携事業「結婚支援事業」の推進					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	平成 30 年度から郡内 6 町村と木曾広域自立圏連携ビジョン「結婚支 援事業」を立ち上げ、広域連携により結婚支援を推進しています。 30 年度は 12 月に婚活イベントを実施しました。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	ふるさとテレワークの推進	おためしナガノ&ときどきナガノ事業の活用	D	県の事業へエントリーしましたが希望者がいませんでした。今後は取組み内容の検討を行い活用を図ります。	村おこし推進課
2	老朽化した住宅の更新整備、新設住宅整備の検討	公共施設等総合管理計画会議の開催	B	30年度は公共施設等総合管理計画会議を毎月開催し、公共施設の統廃合を含めた有効活用について提言をまとめました。	総務課
3	移住相談窓口の設置、移住体験の推進	木曽広域自立圏連携ビジョン「移住・定住促進事業」の推進	B	郡内6町村の広域連携による「移住・定住促進事業」がスタートし、30年度は移住コーディネーターの配置、ポータルサイトの開設、移住促進ツアーなどを実施しました。	村おこし推進課
4	空き家、住宅情報の提供	役場窓口や電話相談での空き家や住宅情報の提供	C	村営住宅の入居率は高く、空き部屋が少ない状況にあります。近年は空き別荘の寄付などにより村有物件も増えてきていることから、空き家を探している方とのマッチングの機会が増えることが期待されます。	村おこし推進課 総務課
5	定住促進のための就労相談、就職情報の提供	木曽広域自立圏連携ビジョン「移住・定住促進事業」の推進	B	郡内6町村の広域連携による「移住・定住促進事業」がスタートし、30年度は移住コーディネーターの配置、ポータルサイトの開設、移住促進ツアーなどを実施しました。	村おこし推進課
6	住宅整備における地元産材の活用と山林所有者との連携しくみづくり	村営住宅整備の検討	D	当面、村営住宅整備の計画はないですが、民間住宅整備における効果的な施策を検討します。	経済産業課 総務課
7	定住環境の魅力アップ	安心して生活できる生活環境の整備	C	総合戦略に掲げた、くらし・しごと・人との交流など、安心して生活できる総合的な取り組みを推進します。	村おこし推進課
8	田舎暮らしの良さのPR 情報通信網の整備	木曽広域自立圏連携ビジョン「移住・定住促進事業」の推進	C	郡内6町村の広域連携による「移住・定住促進事業」がスタートし、30年度は移住コーディネーターの配置、ポータルサイトの開設、移住促進ツアーなどを実施しました。	村おこし推進課
9	森林資源活用のための基礎調査	木質バイオマスエネルギー導入の検討	C	木質バイオマスエネルギー導入計画を策定し、素材生産者等との検討を行いました。	村おこし推進課
10	村民参加による王滝村の ランドデザイン	王滝村総合戦略会議等での施策推進及び検証	B	長期振興計画、総合戦略を王滝村のランドデザインと位置づけ、産官学多様な分野から住民の皆さまに参画を得ながら施策推進や検証に取り組みます。	村おこし推進課
11	ひとり親家庭も含めた子育て世代の移住促進プロジェクト	木曽広域自立圏連携ビジョン「移住・定住促進事業」の推進	D	長野県等、先進自治体の取り組みに注視しつつ、郡内6町村の広域連携による「移住・定住促進事業」で検討していきたい。	村おこし推進課
12	独身者の状況把握	独身者の状況把握	B	おおよそ把握はできました。個人情報の取り扱いには注意を払いながら、広域連携による婚活事業等が予定されているので参加働きかけを行っていききたい。	村おこし推進課
13	相談窓口の設置	相談窓口の充実	C	小規模自治体のメリット（各分野担当者にすぐ連絡をとれる）を活かし、スピーディーに相談を受ける体制を整えます。	村おこし推進課
14	行政、関係機関とのサポート体制づくり	木曽広域自立圏連携ビジョン「結婚支援事業」の推進	C	郡内6町村や関係機関との情報の共有により、サポート体制づくりの足掛かりをつかむことができました。	村おこし推進課
15	出会い、交流の場の提供	木曽広域自立圏連携ビジョン「結婚支援事業」の推進	B	木曽広域自立圏連携ビジョン「結婚支援事業」の一環として、6町村共同で婚活イベントを12月に実施した。	村おこし推進課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	6	40.0%
(努力を要する)	C	6	40.0%
(実績なし)	D	3	20.0%
	合計	15	施策

(2) 下流域地域など交流の一層の充実

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年 度)
ふるさと村民数 【備考】 年度末におけるふるさと村民登録者数 [ふるさと村民登録者数が3倍程度になることが目標]	目標値	人						350
	実績値		119	240	324	340	375	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・村ホームページでの周知 ・下流域市町との交流での制度周知 						
	進捗状況の分析及び今後の取組	登録者数が増加し、目標値を上回っているところですが、近年は登録の推進に結び付く取組ができていないことから、下流域などとの交流促進に努めながら、村の応援団である「ふるさと村民」への登録促進や、登録者が応援していただける仕組みづくりを検討していきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H27年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年 度)
下流域市町とのふれあい交流 【備考】 年間(年度)の王滝村での役場を介した下流域市町との交流事業の回数 [下流域からの交流事業での来村回数を基準値から1割程度増やすことが目標]	目標値	回						34
	実績値		31	39	35	34	30	
	進捗区分			順調	順調	順調	概ね順調	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のバトン事業 ・下流域市町等の森林整備 ・水源の森パートナー事業 						
	進捗状況の分析及び今後の取組	概ね順調に推移しており、現在の交流が途切れることのないよう努めるとともに事業回数だけでなく、質の向上を図り交流人口の拡大に取り組めます。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 下流域地域など交流の一層の充実

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	企業団体等との連携による水源の森づくり事業の促進	牧尾ダム水源の森づくりパートナー協定等の締結	A	現在 6 団体と協定し、KPI 目標値に達しました。今後、より良い関係性を維持し、協働の森づくり事業を促進していきます。	村おこし推進課
2	下流域及び企業ボランティアの募集	森林整備ボランティアの募集	B	パートナー協定に因らない制度で下流域の企業 1 社と協議を行い、31 年度森林整備ボランティアの実施が決まりました。	村おこし推進課
3	交流促進のための施設整備	公共施設の有効活用について検討	C	30 年度は公共施設等総合管理計画会議を毎月開催し、公共施設の有効活用について検討しました。	村おこし推進課
4	交流による経済、文化など地域活力の向上	下流市町開催の産業まつり等への参加	B	下流市町開催の産業まつり等に継続的に参加しています。近年は下流市町から記念品用として、ある程度まとまった数量で木工作品等の注文をいただいているところです。	村おこし推進課
5	村民と都市住人共同による森林の保全再生活動	上下流域の住民が協働で取り組む森づくり	B	30 年度は下流域の複数自治体から市民の皆様による森林整備ボランティアツアーの受け入れを行っています。	村おこし推進課
6	魅力ある村づくりプロジェクト	自然エネルギー利活用による地域活性化の検討	B	王滝村の地域資源を活かした、複数の自然エネルギー利活用による地域活性化事業の案件を検討しています。	村おこし推進課
7	公共施設集約化事業・村有地の利活用に向けた整備	公共施設等総合管理計画会議の開催	B	30 年度は公共施設等総合管理計画会議を毎月開催し、公共施設の統廃合を含めた有効活用について提言をまとめました。	総務課
8	交流の拠点づくり	交流の拠点づくり	D	上記提言などを参考にして交流の拠点づくりを検討します。	村おこし推進課

(順調)	A	1	12.5%
(概ね順調)	B	5	62.5%
(努力を要する)	C	1	12.5%
(実績なし)	D	1	12.5%
合計		8	施策

3【産業】新たな産業や観光振興による村内の雇用の創出を図ります

(1) 観光資源の活用による地域振興

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年)	H27 年	H28 年	H29 年	H30 年	目標 (H31 年)
観光地利用者延数 (宿泊者) 【備考】 県観光地利用者統計調査における年間宿泊数 [年間 2,500 泊程度の増を目標]	目標値	人						83,200
	実績値		71,000	27,200	34,800	31,900	33,600	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	主な施策 進捗状況の分析 及び今後の取組	・県外者向けプレミアム商品券の発行 ・冬季シーズン優待券発行 ・復興対策キャンペーンの実施 ・カヌーツアーの実施 平成 30 年度は滝越道路の崩落がありましたが、前年度比では微増となりました。しかし噴火以降、入山規制の継続や風評被害などより観光地利用者数は依然、伸び悩んでいる状況です。 今年度秋以降の入山規制の緩和や、村内最大級の宿泊施設の営業再開などを契機として、(一社)木曾おんたけ観光局など関係機関と連携して、様々な誘客施策に取り組み利用者数の増加を目指します。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
ツアーガイドの養成 【備考】 年度末におけるアウトドアに関するガイドの養成数 [年間 1 人程度のガイドの養成を目標]	目標値	人						10(累計)
	実績値		5	7(累計)	8(累計)	9(累計)	9(累計)	
	進捗区分			順調	概ね順調	概ね順調	概ね順調	
	主な施策 進捗状況の分析 及び今後の取組	・カヌーツアーガイドの養成 ・滝行ガイド等の人材育成の取組 (一社)木曾おんたけ観光局と連携し、地方創生推進交付金を活用してガイド等の人材育成に取り組んでいきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
御岳湖カヌー利用者数 【備考】 御岳湖カヌーツアーの年度利用者数 [一月平均 150 人程度の利用を目標]	目標値	人						1,000
	実績値		140	658	591	537	210	
	進捗区分			順調	概ね順調	努力を要する	努力を要する	
	主な施策 進捗状況の分析 及び今後の取組	・ラジオ、雑誌、インターネット、イベントを活用した広告宣伝 ・インターネット予約サービス 平成 30 年度は、御岳湖の低水位により営業できない期間が開業以来、最長であったことと、特にお盆前後が全く営業できなかったことが大きく影響し、利用者数が著しく落ち込みました。 今後、(一社)木曾おんたけ観光局と連携・協議をしながら、事業の見直しを図るとともに誘客活動に取り組んでいきます。						

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
スポーツ合宿受入団体・来村者数	目標値	団体						15(700)
	実績値	(人)	9(500)	10(475)	11(630)	13(749)	13(750)	
	進捗区分			概ね順調	順調	順調	順調	
	【備考】 年度における村有施設利用団体数及び施設利用者の延数 [年1団体程度の増を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・松原スポーツ公園整備（管理棟屋根塗装、案内看板修繕など） ・国民体育館の環境美化（大掃除、倉庫整理、草刈りなど） ・ホームページやチラシ、関係団体への働きかけなどによるPR 					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>近年順調に増加していたが、団体数、利用者数ともほぼ前年比と同じであった。学生のスポーツ合宿は8月に集中するため、お断りした団体も複数あったことから、他の月の利用促進が目標達成の鍵となるところだ。</p> <p>国民体育館の老朽化など課題もあるが、出来る限り受入環境の整備を図るとともに積極的なPRにより、松原スポーツ公園を中心としたスポーツ合宿誘致を推進します。</p>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
観光路線バスの運行期間拡大	目標値	日						運行期間の増
	実績値		夏・秋 (108)	夏・秋 (71)	夏・秋 (40)	夏・秋 (52)	夏・秋 (38)	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	【備考】 観光路線バスの年間運行期間 [年間運行期間を拡大することが目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・御嶽山入規制により、休日のみの運行となった。 					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>平成26年の御嶽山噴火災害の影響により年間の運行期間を短縮しています。</p> <p>噴火前とは運行期間が異なるものの利用者が著しく少ないことから令和元年度は運休することとなりました。 (利用者 H25:2612 人、H30:167 人)</p> <p>登山者の動向を注視して、再運行について検討します。</p>						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 観光資源の活用による地域振興

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	村ブランドストーリーの展開【いのち呼び覚ますところ「おんたけ王滝」】	新たなブランドコンセプト「空わたる道」の展開	B	今まで集積してきた王滝村のブランドストーリーを継承する形で、木曾おんたけ観光局が主体となり、地域の新たなブランドコンセプトの展開を行います。	村おこし推進課
2	新たなツーリズムの開発と、住民・観光客への自然環境保護の啓発	ダム、国有林等を活用したツーリズムの開発	B	30年度は観光局が中心となりJR、阪急交通などによる、新たなダムツアーや国有林ウォーキングを実施しました。引き続き、関西電力・森林管理署等と連携し、地域資源を活用したツーリズムの開発を行います。	村おこし推進課
3	ツアーガイドの養成と活用	カヌーツアーガイド等の活用	C	引き続きカヌーツアーガイドの活用とスキルアップに取り組むとともに、今後、御嶽古道や瀬戸川国有林など多分野に精通するガイド養成に取り組めます。	村おこし推進課
4	利用者の立場に立った観光地の整備	清滝・新滝の古道整備 銀河村キャンプ場等村有観光施設の改修	B	地方創生推進交付金を活用し、電動MTBやトレラン環境を整えました。今年度は、地方創生推進交付金を活用し御嶽古道や森林鉄道などの受入環境整備を実施します。	村おこし推進課
5	おもてなしの心、受入体制の充実	外国人向けマップの製作 事業者向け英会話教室の開催（講師：王滝村民） 外国人ファムツアーの実施	C	引き続き、おもてなしの心、受入れ体制の充実など、インバウンド対応を加えたソフト面の受入環境向上に取り組めます。	村おこし推進課
6	エコツーリズムの拡大と積極的な推進	国有林等を活用したプログラムの推進	C	今後、木曾おんたけ観光局や木曾地域広域観光振興プロジェクト会議と連携し、滞在型観光を目指したエコツーリズムを推進していきます。	村おこし推進課
7	ICTを活用した観光施設支援事業	来訪者向け防災、観光情報発信システムの検討	C	今後、Wifiやインバウンド対応も含め、効果的な支援策を検討します。また、御嶽山ビジターセンターへ来訪者向け防災、観光情報発信システム機器の導入を検討してまいります。	村おこし推進課
8	村民や民間団体を主体とする観光振興	各種アウトドアイベントの実施 おんたけ湖ハーフマラソン大会の実施	B	引き続き民間団体主体（実行委員会等）のイベントへの支援を継続します。	村おこし推進課
9	観光路線バス事業の継続と地元観光業者との運行協力体制の確立	入山規制に伴い運行日を減らして実施	C	利用者の減少が著しいため、令和元年度の運行は休止することとなりました。今後、登山者の動向を注視し再開を検討します。	総務課
10	合宿誘致などトレーニングコースの整備（松原スポーツ公園リニューアル、クロスカントリーコースの設置）	既存のスポーツ施設を活用した合宿誘致	C	平成28年度に合宿誘致に関する調査研究事業を実施。今後、ニーズやマーケティングの要素を加味し、中長期的な観点から計画的な受入環境整備を目指します。	村おこし推進課
11	アウトドアスポーツの一層の推進	「スポーツ王国王滝」の推進	C	引き続き「スポーツ王国王滝」を旗印として掲げ、既存コンテンツの更なる磨き上げと、新たなツーリズム、プログラムの開発に取り組めます。 観光局と村の戦略を共有し、地方創生推進交付金を積極的に活用します。	村おこし推進課

12	新たな観光戦略の策定・推進「世界水準の滞在型観光地」「日本遺産」	DMOを核とした観光地域づくり	B	王滝村総合戦略に掲げた観光施策を推進するために、(一社)木曽おんたけ観光局を核として、「山岳高原の地域資源を活かした世界水準の滞在型観光地づくり」に積極的に取り組みます。	村おこし推進課
13	木曽地域の資源を活かした広域観光地づくりの推進	DMOを核とした観光地域づくり	B	木曽地域の資源の価値向上と発信力強化に関係自治体等と連携して取り組みます。	村おこし推進課
14	日本版DMOの推進	DMOを核とした観光地域づくり	B	(一社)木曽おんたけ観光局による日本版DMOの推進を加速化させるために、引き続き地方創生推進交付金を活用して補助金の交付やハード整備などによる支援を継続します。	村おこし推進課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	7	50%
(努力を要する)	C	7	50%
(実績なし)	D	0	0%
合計		14	施策

(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
新たな雇用創出 【備考】 年度末における木質バイオマス等自然エネルギーの活用に伴った雇用者の数 [自然エネルギーの活用を雇用に繋げ、雇用者が 30 人になることが目標]	目標値	人						30
	実績値		—	—	—	—	—	
	進捗区分			実績値なし	実績値なし	実績値なし	実績値なし	
	主な施策	—						
進捗状況の分析 及び今後の取組	自然エネルギーの活用による雇用創出については、計画策定時に大きな目標を掲げて取り組みを続けてきましたが、木質バイオマス発電所等が事業化されていないことから実績値なしとします。 引き続き、王滝村の自然を生かし、木質バイオマス等自然エネルギーの活用に取り組んでいきます。 また、地熱発電など新たな取り組みについても村民など様々なステークホルダーの皆様との合意を得ながら進めてまいります。							
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
年間木材搬出量 【備考】 年間（年度）の村内における木材搬出量 [村内における木材搬出量を 5 倍程度にすることが目標]	目標値	m ³						500
	実績値		110	220	100	100	—	
	進捗区分			順調	努力を要する	努力を要する	実績値なし	
	主な施策	—						
進捗状況の分析 及び今後の取組	現在、民有林（村有林含む）の木材搬出は、薪用の搬出以外ほとんどない状況のため、実績値なしとさせていただきます ※H27～29 は推計値							

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	木質バイオマス事業の推進	木質バイオマス事業の検討	C	木質バイオマスの基本調査結果を基に事業化に向けた検討を行います。	村おこし推進課 経済産業課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	0	0%
(努力を要する)	C	1	100%
(実績なし)	D	0	0%
合計		1	施策

(3) 地域に根ざした産業の振興

指 標 名	年度	単位	基準値 (H24 年)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
卸・小売業の年間商品販売額(1人当たり年間商品販売額) 【備考】 経済センサス又は商業統計速報での王滝村の卸・小売業の年間商品販売額(1人当たり年間商品販売額) [毎年1%向上することを目標]	目標値	万円						毎年1%の向上
	実績値		1,026	—	1,196	—	—	
	進捗区分			実績値なし	順調	実績値なし	実績値なし	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム商品券の発行 ・優待券の発行(ありがとうキャンペーン) 						
進捗状況の分析及び今後の取組	<p>次回の経済センサス活動調査は令和2年度に実施する予定です。引き続き、村内の消費喚起に資する施策を実施していきます。</p>							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	目標 (H31 年度)
遊休農地面積 【備考】 年度末における遊休農地面積 [遊休農地を15%程度減少させることを目標]	目標値	ha						11
	実績値		13	15	11	12	12	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・省力化農産物の掘り起こし ・王滝かぶ等特産作物の作付け誘導及び維持 						
進捗状況の分析及び今後の取組	<p>高齢化による耕作放棄に歯止めがかからない状況となっています。個人での新たな担い手の確保には無理があるため、地域の農業者が連携できる組織づくりや営農方法を検討し、遊休農地を活用した特産品の生産を検討する。合わせて、遊休農地の活用として景観形成植物(花畑)等の取り組みも推進します。</p> <p>※H28年度に遊休農地の指定基準を見直しているため数値が下降しています。</p>							

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(3) 地域に根差した産業の振興

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	企業誘致のための条件整備	王滝村創業支援事業	C	木曾町とともに経済産業省等の認定を受けて行う創業支援計画と創業支援事業補助金交付要綱により企業誘致を支援します。	村おこし推進課
2	農林商工連携による新たな産業の創造	観光局や商工会と農林産物加工販売業者が連携した物産展等への出展、販売促進	C	物産展や産業まつりへの積極的な参加のほか、旅行ツアーへお土産の組み込みなど試みました。今後、農林業者・農林産物加工販売者・商業・飲食店・宿泊施設などとの連携体制づくりに取り組みます。	村おこし推進課 経済産業課
3	六次産業化への支援	六次産業支援に向けた体制づくり	D	生産・加工・販売が一体となった、六次産業支援に向けて体制づくりに取り組みます。DMOと連携して“地域商社”的役割を担う実施主体設立の検討を行います。	村おこし推進課 経済産業課
4	村内事業の受け皿となる事業所の設立	村内事業の状況把握、課題整理	D	既存村内事業の状況把握、課題整理を行い、必要に応じて村内事業の受け皿となる実施主体の検討を行います。	村おこし推進課 経済産業課
5	省力化農産物の掘り起こしと王滝かぶ等特産物の作付け誘導及び維持	王滝かぶ栽培研修会及び講習会開催による新規栽培者育成	B	I ターン定住者及び定年退職者の新規就農者による王滝かぶ栽培を支援し、生産の減少を食い止めます。	経済産業課
6	合理化組合の生産組織経営体（農業法人化）への発展的再編	合理化組合役員会で、組織の再編について議論	B	新たなオペレーター育成を早急に進め、村内高齢農業者の要望される受託作業に対応できるよう受託作業内容も見直します。I ターン定住者及び定年退職者の新規就農者を対象に、自野菜の栽培講習会を開催し、併せて農機運転講習会を実施する中で、合理化組合の担い手を育成します。	経済産業課
7	農地の利用集積の促進による遊休農地の発生防止と有効利用の促進	初めて農業を営む方と、ベテランの高齢農業者の共同作業を実施	B	初めて農業を営む方と、ベテランの高齢農業者の共同作業を通し、お互いの信頼関係を築き上げることで、農地の貸し借りにまで発展したケースをモデルとして、新たな施策に取り組みます。	経済産業課
8	防除・駆除・環境整備の観点から効果的かつ総合的な有害鳥獣対策の継続実施	有害獣防除事業補助金を活用した、電気柵設置を推奨し、効果的な防除対策を実施	B	村単の補助金を最大限有効利用していただき、電気柵の機能が十分に発揮されるよう防除活動を支援します。	経済産業課
9	自然との調和を基調とした農村環境の整備	地域支え合い推進会議による、お年寄りの花畑づくりを試験的に実施 (地域のお年寄りが、仲間と協力し合って花畑づくりに取り組める環境が整った。)	B	緑肥作物であるマリーゴールドの栽培も試験的に行い、良質な王滝かぶの生産に効果があることを確認できたため、今後は活動費等を捻出できる生産性のある作物を同時に栽培する等、関係農地の一年を通した有効活用を検討していきます。	経済産業課
10	遊休・荒廃農地の増加を抑え、解消するための様々な事業展開	農業委員会が遊休農地を活用しながら、景観形成を目的にヒマワリの栽培を実施	B	近年、遊休農地対策で進めてきたそば栽培が、草刈等の維持困難を理由として、徐々に面積が減少してきていることから、合理化組合等により圃場内の草刈りを受託できるような体制を整え、これ以上栽培面積が減らないよう事業を展開していきます。	経済産業課
11	造林事業の促進による森林保全	集約化での森林組合による森林整備	B	村内施業箇所の集約化の促進をします。	経済産業課

12	森林組合との長期施業委託	国の補助制度改正	D	木質バイオマス事業の動向を注視していきます。	経済産業課
13	間伐材の利用促進による自然エネルギーの有効活用	薪ストーブ燃料として村民へ売却、庁内での利用	B	村内薪ストーブ利用者へ村有林の間伐材等の提供を促進します。	経済産業課
14	森林路網整備による低コスト木材の搬出	春山団地における路網の整備	C	木曽森林管理署との協同施業団地の路網整備について、災害で未実施の滝越地区において実施します。	経済産業課
15	公共事業での木材利用の促進	村内土木工事での間伐材の利用	B	間伐材が細いため燃料として利活用します。	経済産業課
16	除間伐材の利活用による新規起業支援（間伐材での利活用、除伐材は薪原木）	新規企業者なし	D	薪利用に向けた取り組みを継続します。木質バイオマス事業の動向に注視します。	経済産業課
17	木材販売における「王滝」ブランド化の推進	搬出材がなく未実施	D	今後、高齢級の搬出材に王滝刻印及び産地証明を添付し販売を推進し「王滝ブランド」の周知を目指します。	経済産業課
18	安定した特産品の生産を推進し、新たな特産品開発と販路拡大	すんきなど安定した特産品の生産や、新たな商品のPR及び出店販売の支援	D	伝統的な特産品・郷土食のPR等に取り組みつつ、DMOの5年間実施計画の中に、ECサイト構築やお土産等販売促進の事業メニューを盛り込み、新たな特産品開発と販路拡大を目指します。	村おこし推進課
19	村内消費の拡大	村内プレミアム商品券の発行 2,000セット 村外プレミアム商品券の発行 2,000セット 冬季宿泊助成券の発行 2,000セット	B	引き続き、村の経済状況を注視しながら、必要に応じて、プレミアム商品券の発行など、村内消費につながる対策を講じます。	村おこし推進課
20	特産品のブランド化を推進	特産品のブランド化を推進するための情報発信	C	木曽おんたけ観光局等と連携して、すんきや百草丸など既存特産品のブランド化を推進するための情報発信に取り組みます。	村おこし推進課
21	既存事業者の資金調達制度の適正運用	村小規模企業振興資金利用者への保証料・利子の補給 県制度資金利用者への保証料・利子の補給	A	村小規模企業振興資金利用者及び県制度資金利用者への利子補給等の運用を適正に実施しました。今後も村条例などに則り、産業の振興や既存事業者の支援を目的として資金調達制度の適正な運用を図ります。	村おこし推進課
22	宿泊施設等の世代交代の円滑な推進	状況把握、課題整理など事業継承の支援の検討	D	宿泊施設等の世代交代の円滑な推進を支援を推進します。今後、商工会や金融機関等と連携して事業継承について情報交換等を行っていきます。	村おこし推進課

(順調)	A	1	4.5%
(概ね順調)	B	10	45.5%
(努力を要する)	C	4	18.2%
(実績なし)	D	7	31.8%
合計		22	施策

4【子育て・福祉】子育て環境の整備を促進し子どもの声が響き渡る村をつくります

(1) 子育てにやさしい村づくり

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年 度)
ファミリーサポートシ ステムの構築	目標値							実現
	実績値		—	—	0	実現	実現	
	進捗区分			実績値 なし	概ね順調	順調	順調	
	【備考】 ファミリーサポートシステムの 構築の状況 [地域での相互扶助による子ど もの一時預かりサービスである ファミリーサポートシステムを 構築することが目標]	主な施策	平成29年度ファミリーサポートセンターを設置し、子どもの一時 預かりの受入れ体制が整っている。					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	受入れの体制は整っているが、今のところその必要がないというこ とで実際の活動に至っていません。 親睦や信頼関係が築けるよう、年1回は交流会を開催する予定でし たが、年度末までには開催することができませんでした。 今後交流会を開催しながら、親子とサポーターの関係を築いていけ るように努めます。また、必要があれば内容の見直しを検討していき ます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年 度)
校外学習塾の開設	目標値	箇所						1
	実績値		—	1	1	1	1	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	【備考】 年度末における村内の郊外学習 塾の設置数 [子供たちがその持てる力をより伸 ばそうとする意欲を高めることが できる施設の設置を目標]	主な施策	・「おうたき寺子屋」の開設 ・「学校法人信学会」と連携した遠隔教育					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	信学会と協定を結び同会のバックアップのもと「おうたき寺子屋」 を開設しています。 今後は、中学生を対象にした信学会コンテンツを活用した授業は、 受講者からは好評であったことから、高校生も視野に入れた取組を実 施していきます。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 子育てにやさしい村づくり

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	子育て家庭への経済的支援体制	子育て家庭への経済的支援体制	B	保育料の無料化、学校給食費の無料化、中学生までの医療費給付などを実施しています。今後も子育て家庭への経済的新体制については必要に応じ見直しを行いながら体制を整備していきます。	福祉健康課
2	子育てサポート、子ども・子育て支援事業	子育て支援講座の開催	B	保育園・未就園児の保護者向けに心理士による子育て講座を開催します。	福祉健康課
3	地域との連携による子育て支援体制の確立	地域との連携による子育て支援体制の確立	B	平成29年度に地域との連携の一つとしてファミリーサポートを立ち上げました。今後は、子育て親子と地域住民との世代交流等を計画しながら子育て親子が地域で安心して子育てを行えるような支援体制づくりに取り組んでいきます。	福祉健康課
4	児童虐待防止に関する人権相談所・心配ごと相談所の利用促進	要保護児童対策協議会の開催	B	村の子育ての課題について関係機関との共有及び連携を図り、一貫した支援が図られるよう今後も引続き継続して取組みます。	福祉健康課
5	親子支援に関する関係機関の連携体制の整備	親子支援に関する関係機関の連携確保のための会議日程の確保や学校と共催で赤ちゃんふれあい事業の開催。	B	途切れない子育て支援体制構築のために、村内外の関係機関による会議を開催し現状の課題とその対策について協議を実施しました。	福祉健康課
6	未来の寺子屋プロジェクト	王滝寺子屋の活動	B	信学会と連携して活動の継続を図ります。	村おこし推進課
7	特色ある保育所づくり	地域(お年寄りなど)や他園との交流事業	B	王寿会やデイサービス利用者との交流会や、三岳保育園との交流事業を今後も継続していきます。	教育委員会

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	7	100%
(努力を要する)	C	0	0%
(実績なし)	D	0	0%
合計		7	施策

(2) 教育環境の充実

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年 度)
タブレット端末の整備 【備考】 年度末における中学校でのタブ レット端末の整備数 [中学生が各々に自分の課題に 応じた学習ができるよう 1 人 1 台配置することを目標]	目標値	台						1人1台
	実績値		3	3	15	18	18	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	主な施策	個人学習や調べ学習でのタブレット端末の活用						
進捗状況の分析 及び今後の取組	タブレット端末の整備に関しては 平成 29 年度で目標である中学 生 1 人 1 台の配置が完了しました。 今後、タブレット等 I C Tを活用した教材研究を引き続き行ってい きます。							

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 教育環境の充実

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	情報教育環境の整備	タブレット端末等を活用したICT教育活動	A	近隣町村学校と連携し、より効果的なICT教育の研究や十分な時間確保に向けた調整の継続を図ります。	教育委員会
2	児童・生徒数にあった指導計画の作成	ALT 講師による外国語学習を中心とした学習指導個々の学びに応じた講師・支援自配置	B	児童生徒の少人数化に伴い学校地域が連携するとともに、教育支援委員会での協力を得ながら施策を継続します。	教育委員会
3	学校支援ボランティアの育成	学校を核とした学校地域連携協働活動の充実化及び人材育成	B	より多くの村民が学校との協働活動や学校運営に参画できるような「学校運営協議会制度」の導入や学校と公民館共同での人材育成を図ります	教育委員会
4	総合学習を基盤とした地域に根ざした学習プログラム作りの支援	児童生徒個々に応じた学習支援体制の充実 学校地域連携コーディネーターを交えたプログラムづくり	B	学校支援会議や教育支援会議において引き続き情報共有を行い継続していくとともに「王滝未来プロジェクト」など地域協働活動を通じて個々の学びを助長させていきます。	教育委員会
5	他校との交流（近隣町村校、御前崎中学校等）	御前崎中学校との相互交流 三岳小学校との交流授業	B	児童生徒少人数化に伴う今後の教育のあり方など、近隣小中学校及び教育委員会担当間にて研究討議を行っていきます。 御前崎中学校交流については、今後の方向性を検討していきます。	教育委員会
6	学校修繕計画の実施	小中学校外壁・屋根改修工事	A	平成28年度より段階的に改修工事を実施。平成30年度を持って大規模改修工事は終了しました。	教育委員会
7	小中学校の魅力発信事業	ホームページや広報を通じた教育活動の発信 公民館と連携した村内外への活動報告	B	村ホームページや広報紙を通じて学習活動状況を定期的に発信していきます。 県内・全国規模の大会において活動事例を報告する機会を模索します。	教育委員会

(順調)	A	2	28.6%
(概ね順調)	B	5	71.4%
(努力を要する)	C	0	0%
(実績なし)	D	0	0%
合計		7	施策

(3) 高齢者等が安心して過ごせる村

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
医療施設(内科・外科) の維持 【備考】 年度末における村診療所の医師 の数 [村診療所の維持を目標]	目標値	人						維持
	実績値		1	1	1	1	1	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	主な施策	・常勤医師の雇用						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	常勤医師1名を確保できているため、村診療所が維持され、順調に運営されている。 引き続き常勤医師の確保に努めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
医療施設(歯科)の維持 【備考】 年度末における村歯科診療所の 歯科医師の数 [村歯科診療所の維持を目標]	目標値	人						維持
	実績値		1	1	1	1	1	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	
	主な施策	・JAとの歯科医師派遣委託						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	JAと歯科医師の週2日派遣を委託契約していることから、村歯科診療所が維持され、順調に運営されている。 引き続き、歯科診療所が維持できるよう努めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
特定健診受診率 【備考】 村民の当該年度における特定健 診の受診率 [厚生労働省の特定健康診査等 基本指針における市町村国保の 目標値を目標]	目標値	%						60.0
	実績値		36.8	42.1	41.8	41.6	38.3	
	進捗区分			順調	順調	順調	努力を要する	
	主な施策	・特定健診						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	対象者へ個別に案内を出すなどの取組みを行っています。 受診率向上に向けて、健診機会の拡充、周知等を検討します。						

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年 度)
生活習慣の改善意識	目標値	%						増加
	実績値		65.5%	—	—	63.3%	—	
	進捗区分			実績値なし	実績値なし	概ね順調	実績値なし	
	【備考】 運動や食生活等の改善をしてみようとおもう人の割合（基準値H26年）	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定検診結果返却会の村内各地での実施 ・ 健康づくり教室の実施 					
	進捗状況の分析及び今後の取組	<p>4年毎に1回程度の調査としているため、30年度は実績値なしとさせていただきます。</p> <p>特定健診の結果や医療費等の分析により、初期段階で生活習慣の見直しができるように取り組んでいきます。生活習慣の早期改善につながるような啓発活動の取組みや必要に応じた継続的な支援を実施していきます。</p>						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(3) 高齢者が安心して過ごせる村

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	王滝村データヘルス計画、王滝村健康づくり計画に基づく「健(検)診を受ける・体を動かす・健康に食べる」の3つを柱とする健康増進施策の実施	健診機会の確保の継続	B	データヘルス計画などに基づき、生活習慣病・がんの早期発見、早期治療のため、検診(健診)機会の拡大を実施していきます	福祉健康課
2	医師の安定確保	常勤内科医師の確保及び歯科診療業委託により診療所の運営	B	引き続き、医師の安定確保に努め、診療所を維持運営していきます。	福祉健康課
3	往診・在宅医療の遂行	往診、在宅医療、介護サービスの実施	B	希望者への往診、在宅医療の実施をしていきます。 歯科訪問診断に努めていきます。	福祉健康課
4	地域医療機関、保健事業、福祉との連携	後期高齢者検診の委託	B	後期高齢者検診は未実施。他での検診結果により診療相談、加療の継続を行っていきます。	福祉健康課
5	医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築	介護予防・日常生活支援総合事業 一元的な体制構築に向けた情報収集・課題整理など	B	「介護予防・日常生活支援総合事業」の充実を図ります。 また、生活支援ネットワーク会議や地域支え合い推進会議などと連携し、情報収集や課題の整理を行い、多様な担い手による多様なサービスを創出できるよう取り組みます。	福祉健康課
6	地域包括支援センターの充実	地域支援活動(運動・認知症予防等の教室)の実施	C	介護や福祉、健康、医療などさまざまな分野から総合的に高齢者とその家族を支える機関として地域の窓口となるよう、適切な機関と連携し、必要なサービス等へ繋げられる組織づくりに取り組みます。	福祉健康課
7	高齢者世帯、一人暮らし高齢者が安心して暮らせるための支援対策	地域住民参加による生活支援の新たな体制づくりの基盤となる「生活支援ネットワーク会議」と「地域支え合い推進会議」による活動	B	生活支援ネットワーク会議や地域支え合い推進会議などと連携し、情報収集や課題の整理を行い、多様な担い手による多様なサービスを創出できるよう取り組みます。	福祉健康課
8	認知症になっても安心して暮らすことができるよう、地域支援対策の推進	介護予防・日常生活支援総合事業 地域支援対策の推進に向けた情報収集・課題整理など	B	「介護予防・日常生活支援総合事業」の充実を図ります。 また、関係機関と連携し、情報収集や課題の整理を行い、多様な担い手による多様なサービスを創出できるよう取り組みます。	福祉健康課
9	関係機関との連携による支援体制	情報の共有やネットワークづくりを図るため各種担当者会議へ出席	B	木曽障がい者総合支援センター とともにや 各事業所及び近隣町村など関係機関と情報を共有しながら連携して支援が図られるよう取組んでいきます。	福祉健康課
10	地域生活への移行、就労支援	随時関係機関と連携を図りながら必要な支援へ繋げていく	B	木曽障がい者総合支援センター とともにや 各事業所及び近隣町村など関係機関と情報を共有しながら連携して支援が図られるよう取組んでいきます。	福祉健康課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	9	90%
(努力を要する)	C	1	10%
(実績なし)	D	0	0%
合計		10	施策

(4) 生きがいをもって暮らせる村

指 標 名	年度	単位	基準値 (H25年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年 度)
何らかの学習活動に従事する割合	目標値	%						43.6
	実績値		28.8	30.9	32.0	33.0	38.0	
	進捗区分			概ね順調	概ね順調	努力を要する	概ね順調	
	【備考】 当該年度における公民館活動及び地域づくり実践活動に参加した村民の割合 [当該割合を平成 45 年度までに 100%とする計画に対する平成 31 年度の進捗率を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動及び地域づくり実践活動への参加促進 ・公民館まつり及び村民運動会等、村民総参画による諸行事の推進 ・地域間交流事業への参加促進 					
	進捗状況の分析及び今後の取組	<p>公民館活動及び地域づくり実践活動に参加した村民の割合は、29年度と比較し大幅に向上し、目標値達成も視野に入ってきました。</p> <p>より多くの村民に活動への参加を促すため、公民館のみならず学校や関係機関との連携を一層すすめるとともに村民参画による地域づくりに繋がるよう取り組んでいきます。</p>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H25年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年 度)
学びの成果を村づくりに生かす活動に従事する割合	目標値	%						30.1
	実績値		13.4	17.2	20.0	25.0	28.0	
	進捗区分			順調	概ね順調	概ね順調	順調	
	【備考】 当該年度における育成活動、スポーツ活動、公民館活動で指導的役割に従事した村民の割合 [当該割合を平成 45 年度までに 60%とする計画に対する平成 31 年度の進捗率を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室推進事業を通じた子どもの活動及び家庭教育支援の推進 ・スポーツ活動における指導者の育成 ・公民館活動及び地域活動における実践活動 					
	進捗状況の分析及び今後の取組	<p>順調に右肩上がり推移し目標値達成も視野に入ってきました。</p> <p>育成活動、スポーツ活動、公民館活動で指導的役割に従事した村民の割合は、指導者等育成の取組により順調に推移しています。</p> <p>引き続き、指導者養成などの人材育成に取り組みながら学びの成果を地域の活性化に生かす活動を進めます。</p>						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(4) 生きがいをもって暮らせる村

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	誰もが参加する各種講座やスポーツ、レクリエーション活動の実施	体育協会及び学校と連携したスポーツ活動 スポーツ推進委員会議による情報交換	B	村民のニーズに応じたスポーツ活動の一層の充実を図ります。(中高年層のスポーツ活動を重視しながら健康志向スポーツ活動を検討していきます。)	教育委員会
2	コーディネーター、スポーツ推進員等人材の育成	スポーツ推進員の委嘱及びその人材育成	B	小中学生へのスポーツ指導の継続やスポーツ活動を運営していくための人材育成を関係機関と連携して協議していきます。	教育委員会
3	社会教育施設等の計画的な修繕	公民館施設(本館・分館)の修繕	B	平成30年は台風被害により二子持分館施設を修繕。今後も各区長・分館長の意見を踏まえ計画的に修繕を行っていきます。	教育委員会
4	公民館交流事業の推進	地域間交流活動による学習活動の拡大	B	地域間交流学習活動を継続させ、学びの成果を村づくりに生かせるよう事業を実施していきます。	教育委員会
5	公民館だより等広報の発行	公民館だよりの発行(月1回)	B	公民館だよりの発行を継続させるとともに分館長・主事との協力体制を一層確立させ、身近な地域の問題を掲載していきます。	教育委員会
6	放課後子ども教室推進事業を通じた子どもの活動及び家庭教育支援の充実化	放課後子ども教室事業の継続 子ども育成会と連携した家庭教育支援	B	小学校児童全員を対象とした放課後子ども教室事業を継続します。従事スタッフ確保に向けた諸課題に対応しながら、子ども育成会と連携し、子育て・家庭教育支援を継続していきます。	教育委員会
7	村民参画による運動会、公民館まつりの運営会議の充実化	村民ふれあい運動会 公民館まつり	B	子どもから大人まで、一堂に会しての交流活動や活動の成果発表の場になるよう関係機関との連携や協働(共同)開催を含め検討を継続させていきます。	教育委員会
8	新村誌の編纂	村誌「歴史編上下巻」発行に向け編集作業実施	C	平成29年に村誌「自然編」を発行。現在、歴史編を編集中です。	教育委員会
9	御嶽山岳歴史文化会館の充実	食文化の継続を中心とした講座の実施や郷土食の研究	B	公民館を中心とした郷土食講座や地域おこし協力隊と連携した郷土食研究のフィールドとして活用を検討します。	教育委員会
10	活用するための人材育成等体制整備	文化施設の管理運営	C	御嶽歴史文化会館のあり方を検討していきます。	教育委員会
11	郷土食(スンキ、ほう葉巻、万年鮎等)の作り方教室等の開催	森林鉄道の会との連絡調整及び保存協議	B	公民館を中心とした郷土食講座や地域おこし協力隊と連携した郷土食研究を行っていきます。	教育委員会
12	森林鉄道の保存、歴史的意義の伝承	森林鉄道の会等と共催で森林鉄道フェスティバル開催(実行委員会)	B	松原スポーツ公園内の周回軌道の敷設を目指しています。現存の車両や軌道の老朽化が著しくなっています。今後どのように整備し活用していく検討を行います。	教育委員会
13	インターネット、広報等での周知	「村誌編纂室だより」及び「公民館だより」による周知	B	村誌編纂室だよりや公民館だよりによる村民向け周知を継続します。今後、インターネットによる村外発信も検討していきます。	教育委員会

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	11	84.6%
(努力を要する)	C	2	15.4%
(実績なし)	D	0	0%
合計		13	施策

5 王滝村総合戦略に含まない施策（長期振興計画にのみ記載されている施策）

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	地方債を財源とする事業の必要性の検証	平成40年度までの財政シミュレーションで実質公債費率及び将来負担比率の推計を行っている。	B	木曾広域連合CATV光化促進事業や防災行政無線デジタル化整備など必要とされる事業へ交付税措置率の高い起債を利用していきます。	総務課
2	持続可能な定員管理計画の策定	定員管理計画の策定	B	必要に応じ、定員管理の見直しを行います。	総務課
3	情報化機器の充実	端末の計画的更新を実施	B	情報機器の保守管理を徹底するとともに、更新計画に基づいた情報機器の更新を図ります。	総務課
4	定員管理と事務の効率化	定員管理の適正化 事務事業の効率化	B	計画に基づいた定員管理と事務の適正化を行います。	総務課
5	人事評価制度の実施	人事評価制度の運用	B	人事評価の実施を今後も行います。	総務課
6	公会計制度の導入（財務諸表の作成）	平成27年度決算から導入済み。村の会計全てと広域連合などを合わせた連結決算まで作成	B	連結決算まで完成したため、導入については平成29年度で完了。平成30年度以降は、継続して財務諸表の作成を図ります。	総務課
7	行政評価システムの導入	未導入	D	費用対効果の観点から現時点においては、導入を見送ります。	総務課
8	計画的車両配置整備事業	適切な公用車の配置 計画的な公用車の更新	C	公用車の車両点検を実施しつつ、適切な公用車の配置及び計画的な更新を図ります。	総務課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	6	75%
(努力を要する)	C	1	12.5%
(実績なし)	D	1	12.5%
合計		8	施策